

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.137

2017.3.6
発行：平和憲法・9条をまもる
岩手の会 実務者会議
連絡先 県生協連・県消団連
TEL019-684-2225
FAX019-684-2227

目標5万筆

平和を願う岩手からの声を国会に届けよう！

～「戦争に道を開く安保法制を廃止し、新任務の撤回、
憲法9条を守りいかした平和貢献を求める請願署名」～

戦争させない・9条を壊すな！岩手の会として、1月22日に「平和のつどい」を開催。これを皮切りに新署名の取り組みがスタートしました。各地域で、街頭宣伝や署名行動などが動き始めています。

《矢巾九条の会、平和憲法・9条を守る都南の会》

2月19日に早朝7:30から、ツルハドラッグ前で合同にて街頭宣伝を実施しました。

《平和憲法・9条をまもる花巻地域懇談会》

署名活動のほか、3月の花巻市議会に「自衛隊南スーダン派遣撤退を求める請願」を提出（すでに北上市議会では1月に同趣旨の意見書が採択）。

《釜石・大槌9条の会》

9の日行動として2月9日11:30～街頭署名実施し52筆を集めました。毎月19日には昼デモ実施。



～矢巾・都南 合同宣伝の様子～



《いわて生協》

独自チラシ付きの署名を作成。目標 15,000 筆をめざし、2月に約 2,300 人が参加したコープ懇談会で時間を設けてその場での記入を呼びかけたり、職員一人ひとりが目標を持って取り組み中です。

～コープ懇談会の様子～



4月7日（金）は一斉署名行動日！

昨年の「2,000万署名」の取り組みを思い出し、全県で署名活動に取り組みましょう！

平和憲法・9条を守る岩手の会で毎月実施の9の日街宣ですが、4月は7日（金）に設定し、この日を一斉行動日にします。事務局でも場所を検討しますが、各組織でも通常行っている場所のほか、それ以外の場所（例えば、生協以外のユニバースやマルイチ等の店舗前、学校周辺など）にも、署名活動をしていいかお願いしてみたり、地域を決めて一軒ずつまわってみるなどの行動してみましょう。

今後の行動が決まった組織・団体がありましたら、事務局までお知らせください！

お知らせ

《「戦争させない・9条壊すな！岩手の会」協賛金に、ご協力ください》

協賛金として1口1000円以上の協力をお願いいたします。地域9条の会など地域の団体には、協賛金1000円につき2色刷り署名50枚をお渡ししています。各団体で増す刷りする場合は、データでもお送りできます。入金方法等については、事務局までご相談ください。

今月の署名行動

3月街頭署名行動は、9日（木）12:15～12:45「野村證券前」です。
戦争させない・9条壊すな！岩手の会の新署名に、気持ちも新たに組み込んで行きましょう！

白熱！映画鑑賞後の意見交流 ～とうわ九条の会～

毎月第3火曜日に学習会を開催。会員向けニュースには、学習会の感想や内容報告を掲載しています。1月と2月にはドキュメンタリー映画『不思議なクニの憲法』（松井久子監督）を前後編に分けて鑑賞。自分たちから遠い存在と思われ、実際「どこかの偉い人」によって決められる日本国憲法を、多くの識者や一般人へのインタビューで自分たちに引き寄せる試みをこの映画は見事に成功させています。登場人物は瀬戸内寂聴さん、憲法学者の長谷部恭男さん、自民党憲法改正推進本部長代行の船田元さんなどの有名人に交じって、憲法9条を大切にしている活動を続けている市民など、多士多彩です。

映画鑑賞後、一人ひとり感想を述べ合いました。「憲法に全く関心のない人を引き込む方法が参考になった」「改めて憲法のすばらしさに感激」「若者が憲法をどうとらえているか興味深かった」等、1時間の討論時間があったという間に過ぎ去るほど白熱。今後も会員が深く学び、大いに語り合えるテーマの学習会を継続していきます。（とうわ九条の会代表 武政美紀子）



『建国記念の日』について考える県民のつどい

2月11日、靖国・教科書岩手県市民ネットワーク、岩手県歴史教育者協議会等7団体の呼びかけで、約100人が参加しました。主催団体を代表して深沢秀男さん（岩手大学名誉教授）の挨拶後、丸田善明さん（宗教者9条フォーラムいわて事務局長）が「不安の時代の名のない私一右傾化する社会のなかで」と題して講演。丸田さんは、「日本人は国家からさまざまな“関係性”を強いられ、個性を奪われている」と個人としての精神の自由を取り戻し、そこから国を見ることが大事だと述べました。

講演に続き、小笠原基也弁護士が「共謀罪」について報告。「基地に反対したいから国会前でデモしよう」と話ただけで罪になり、恐ろしい監視社会になるこの法案の危険性を説明し、怖くなった国民が萎縮して何もできなくなるのがねらいだと、国会に提出させない運動の強化を訴えました。（岩手県革新懇 藤村敬吾）



コラム = これが首脳会談！？ 首脳会議！？ 皆さんはどう思いますか（その3）

立春過ぎた2月10日、ワシントンで「日米首脳会談」を開催。内容は「日米同盟の維持・強化」「2国間交渉も排除しない経済、通商交渉の開始」（「要旨」）で、これは日本側による事前の用意周到な「お土産外交」と言われるほどの、手回しの良さだとか。しかもアメリカ側に事前に漏れ伝えさせられたもの。

ホワイトハウスで出迎えるトランプ大統領は、下車する安倍首相を「ハグ」でお迎え。「首脳会談」を始めるにあたり、手を固く握り合うのはいいとして、大統領はその手をなかなか離さず、長すぎるほどの握手。また、カメラマンから求められたポーズを勘違いし、安倍首相の顔をじっと見ながら安倍首相の手をポンポンと軽くたたき、とてもご満悦。続く「首脳会談」も「スイスイ」と進行。会談に先立って令嬢イバンカ氏が、「安倍首相はクレバーだから黙って話を聞いていたら！」と大統領に助言したとか。共同声明には、「日本国民は米軍の駐留を受け入れてくれて感謝する」「辺野古移設は唯一の解決策」など、日本国民として見過ごしてはいけないことが。しかも安倍首相は記者から質問されていないのに、「（大統領令による）入国禁止措置は内政問題」と、日本国民として呆れるもの。

早々に「首脳会談」を終えフロリダの豪華別荘に移動し、両者は高笑いしながら「ゴルフ外交」。しかし「首脳会談」でありながら、安倍首相は帰国後、国会での「多数」を背に国民に内容を説明せず。これを「蜜月外交」だとか。それでよいでしょうか。

季節は誰もが待ち望む春の始まりと思いきや、安倍首相の帰国後、防衛大綱の前倒し改定、日米経済対話の4月からの開始とか、「首脳会談」での約束事が「静かに開始」されている。これは日米関係の「春」でしょうか。70年代からかつて行われた「日米構造協議」で、軍事・経済で日本国民が真綿で首を絞められるように苦しめられた歴史を思い出さずにはいられません。コラムだけの杞憂でしょうか。「そこのけそこのけアベノミリタリーが通る！」。決して1ミリたりとも通してはいけません。（T）